

●開催概要

	第 1 部	第 2 部
開催日	令和 7 年 7 月 27 日（日）	
時 間	午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分	午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分
会 場	中央公民館 2 階 西集会室(和室)	産業文化会館 2 階 会議室
参加者	18 名	10 名
市出席者	市長、副市長、教育長、生涯学習課長ほか事務担当者	

1 市長あいさつ

市 長	○この生涯学習施設は、図書館機能、公民館機能に加えて、子育て世代や多世代が交流し、くつろげる憩いのスペースを備えることが重要と考えています。これらを兼ね備えた施設を整備していくことをご理解いただきたいと思います。 ○候補地はいくつかありますが、その中で関沢地内の嘉平山を有力な候補地の一つと考えています。今後、さまざまなご意見をいただきながら、より望ましい場所を決めていきたいと思っています。 ○新潟日報の報道では大事な部分が割愛され、候補地が嘉平山と受け取れる内容になっていたため、多くの方々からお問い合わせやご意見をいただきました。 ○候補地は嘉平山に決まったわけではなく、有力な候補地の一つとして挙げている状況です。そのことは4月と6月の議会でもお伝えしており、本日の説明会も決定事項をお伝えする場ではありません。 ○パブリックコメント等では「中央公民館や図書館は生涯学習施設ができたらなくなるのか」という声をいただきました。中心市街地に生涯学習施設を整備する場合は、無理や無駄がなく自然な形として廃止になると考えています。一方で、中心市街地以外に整備する場合は、中央公民館や図書館の機能は原則残し、コンパクトに一体化してリニューアルすることもあり得ると認識しています。 ○財源については、新しい施設や大きな施設を整備することに対して疑問の声もいただいております。いかなる施設を造る場合にも重要な要素であると認識しています。建設費は最大 45 億円としていますが、規模をコンパクトにすることで縮減は可能であると考えています。 ○どういう場所に造るかは極めて大事でありまして、最大公約数的に多くの市民の方が使える施設を、どこに建設するのが現実的であるのかという想定で選んでいかなければならないのだと考えています。 ○10 年後をめどに中学校の統合を考えていく必要があります。中条中学校以外の 3 つの中学校は、10 年後には 1 クラス 10 人を割るといふ推計が出ており、再編統合は現実的な課題となっています。その際の有力な候補地は、現中条中学校とその周辺であり、多数の生徒が徒歩や自転車で通える点からも自然で理想的であると考えています。
-----	--

	一方で、生涯学習施設については、一定の広さや機能を確保するため、中学校と重ならない別の場所に整備することになります。これらを総合的に考慮して進めていく前提をご理解いただきたいと思います。
--	---

2 事務局説明

事務局	○施設の基本的な考え方・コンセプト ・本施設は、市民の意見や令和5年3月に策定された基本構想を踏まえ、情報・文化交流の拠点を基本理念とします。 ・公民館や図書館の機能に加え、子ども・子育て世代を中心に、多世代が集う交流の場を創出する多世代交流拠点を目指します。 ・施設イメージとしては、公民館・図書館機能を備えつつ、多世代が自然に交流できる場とし、子どもから高齢者まで全市民を対象とします。 ○施設の内部・外部空間 ・建物内部は、来館者が快適に過ごせるゆったりとした空間とします。 ・屋外には、子どもが自由に遊べる遊具付き広場や、多様な人々が交流できるスペースの整備を検討しています。 ○規模と事業費 ・施設の延べ床面積は概ね4,000㎡を想定しており、屋内遊び場やゆとりある空間の創出を基本構想に基づき示した上限面積です。 ・設計段階では、必要な機能を確保しつつ、規模をコンパクト化する方向で検討します。 ・総事業費は約45億円で建設コストの最大値を想定していますが、今後、物価が大幅に上昇しなければ、事業費の縮減も可能と見込んでいます。 ○建設候補地の条件 ・基本構想における条件は、ゆとりある開かれた空間の創出、周辺環境との調和、そしてアクセスのしやすさです。 ・建設候補地ごとのメリット・デメリットも整理しています。(説明会資料) ○有力候補地の位置付け ・基本計画案では、機能を満たすゆとりあるスペース、幹線道路からのアクセス、駐車スペースの確保、自然に囲まれた静かな環境を考慮し、嘉平山を有力候補地として位置付けています。 ただし、これはあくまで有力候補地の一つであり、建設予定地として確定したものではありません。 ○パブリックコメントの実施状況 ・令和7年4月17日から6月17日までの2か月間、パブリックコメントを実施し、合計59件のご意見をいただきました。 ○建設候補地に関する意見 ・嘉平山については、市街地から遠い、徒歩での利用が難しいなど、他の候補地の再検討を求める意見が目立ちました。 ・市では、多様なご意見を望ましい方向に集約するため、有識者、施設利用者、子育て世代、公募委員などで構成する審議会を設置し、諮問・答申を経て最終決定する方向で検討しています。 ○施設規模・財政に関する意見 ・人口減少の中で施設の規模が適切か、よりコンパクトで持続可能な施設を求める声がありました。 ・本施設は、公民館・図書館・交流拠点の3つの機能を備えた複合施
-----	--

	設であるため、ある程度の規模は必要と考えています。 ただし、設計段階では一定程度規模をコンパクト化する方向で検討しており、事業費の縮減も可能です。 ・財源については、国の補助金の活用に加え、4 年後に運転開始予定の洋上風力発電事業から生じる安定的な固定資産税収の活用も見込んでいます。 ○既存施設の維持について ・中央公民館や図書館がなくなると徒歩で利用できなくなるのではないかという意見がありました。これについては、新たな施設が中心市街地以外に建設される場合、乙・築地・黒川地区などと同様に既存施設の機能は引き続き維持する方針です。 ○その他 ・利用対象となる世代、施設の基本的な考え方、市民へのわかりやすい情報発信方法など、多様な意見がありました。 ○今後のスケジュール ・市民説明会以降は、パブリックコメントの内容を踏まえ、基本計画案を必要に応じて見直し、改めてパブリックコメントの実施を検討します。 ・特に建設候補地については、有識者・施設利用者・子育て世代・公務員などで構成する審議会に諮問・答申を経て最終決定する方針です。
--	---

3-1 質疑 (第1部)

参加者	○計画への意見を広く収集する方法はアンケートが一般的であると考えるが、通常はアンケートで行う意見収集を、なぜ数居の高いパブリックコメント形式で実施したのか、その理由を教えてください。
市 長	○パブリックコメントにこだわっているわけではなく、アンケートなども含めて幅広く意見を集める手段として考えています。アンケートは論点が整理されないまま多様な意見が出る可能性があります。パブリックコメントの結果のみでなく、検討委員会やワークショップなどで伺った意見を踏まえながら、総合的に考えていますので大きな乖離はないと捉えています。
参加者	○今回のパブリックコメントでは、匿名 6 件を除く 53 件の意見のうち、87%にあたる 46 件が建設候補地に関する意見で、内容としては、嘉平山賛成が 4 件 (9%)、反対が 42 件 (91%) で、多くの市民は嘉平山に否定的でした。嘉平山反対者の代替案としては、中央公民館跡地が 16 件 (35%)、中心市街地が 6 件 (13%)、その他市役所や旧小学校周辺などが挙げられています。また、場所を限定せず嘉平山での検討を希望する意見も 11 件 (24%) ありました。希望者を現地に案内してメリット・デメリットを確認した上で、アンケートで候補地を選んでもらう方法が望ましいと思います。
市 長	○現地確認は有益であり、アンケートも全否定はしていません。ただし、パブリックコメントに寄せられた意見だけが市民全体の代表的

	意見と考えるのは危険であり、コメントを寄せなくても概ね了解している市民もいます。今後は、審議会などを通じて専門家や市民の意見を深掘りし、足りない情報を補いながら、より良い方向性を見いだしていきたいと考えています。
参加者	○既存の公民館や中条の町中の図書館に備わる「図書館を併設した公民館的機能」を、既存施設の活用も含めてどのような形で維持していくのでしょうか。
市 長	○生涯学習施設は、図書館や公民館だけでなく、多様なニーズを踏まえた複合施設を目指しており、案の段階から基本的な方向性は変わっていません。 ○中心市街地に新施設を建設する場合は既存施設の廃止も自然ですが、中心市街地以外に建設する場合は、中央公民館や図書館を基本的に維持しつつ、将来的には統合やリニューアルも想定範囲に入れていくということでご理解いただきたいと思います。 ○乙・築地・黒川などの地域施設と同様に中条地区についても市民に身近な拠点として維持する方針であり、新施設に関する記述だけでは十分に伝わらなかった点についてお詫びいたします。
参加者	○既存の中央公民館や黒川・築地・乙の各公民館は老朽化が進んでおり、地域の防災・コミュニティ拠点として重要なため、住民が歩いて通える範囲での公共施設として維持・整備するための予算は考えていますか。 ○中央公民館周辺の市有地を活用し、一体化した多層施設を整備することで、中学生も利用できる図書館や公共施設として利用する考えはできないのでしょうか。 ○駐車場やバスなどのアクセス整備のランニングコストを将来にわたって確保できるかを含め、住民が自らの足で通える立地としての検討が望ましいのではないのでしょうか。 ○4つの公民館をはじめ、老朽化が進んでいる既存施設の維持・整備に必要な財源について、どの程度確保する計画か教えてください。
市 長	○歩いて行ける施設は重要ですが、誰もが徒歩で通える場所は限られるため、最大公約数的に多くの市民が利用できる場所を広く確保する必要があります。同時に、乙・築地・黒川などの既存施設も活用し、住民の利便性を考慮した整備を検討しています。 ○予算については、建て替えや補修コストを見極め、できるだけコンパクトでありながら市民ニーズに応える計画を立てる必要があります。 ○中央公民館周辺の市有地は、統合中学校ができたとしても図書館や公民館的な機能を維持していくことはすでに検討の材料としていま

	す。 ○すべて総合的・多角的に検討して決めていかなければならないと考えています。
参加者	○この統合中学校は、中条地区だけで一校にまとめる計画なのでしょうか。
市 長	○これまでの議論の中で、中条中学校をそのまま残し、他の3校を統合したとしても、その規模では近い将来、さらに統合の可能性が高まるという推計の中で現れています。そのため、中条中1校を残す方式よりも、4校すべてを1校に統合するほうが合理的で筋道が通っていると考えています。
教育長	○これまで再編の検討委員会で何度も審議を重ね、今後10年、20年先を見据えた場合、胎内市の子どもたちがより望ましい学びを得るには、4つの中学校を1つに統合し、よりよい中学校を造ることが適切であるという意見が多く出されました。現在、その方向で進めており、8月下旬から統合準備委員会をスタートさせ、さらに深く検討していく予定です。
参加者	○生涯学習施設の建設と統合中学校の建設予定地の問題があるが、どちらの計画が先に進むのでしょうか。
市 長	○統合中学校の建設を優先するかは固定的ではありません。
参加者	○生涯学習施設を考える際、中学校の統合問題は優先順位からいけば別扱いでよい。中学校はスクールバス等で対応できるため、施設の候補地としてわざわざ中学校予定地を優先する必要はない。
市 長	○生涯学習施設を優先する考えもあれば、中学校を優先する考えもあります。そういった考え方も尊重し、議論を深めながら進めていくことが大切であると考えています。
参加者	○新しい施設の建設と、町中に残る図書館や公民館のリニューアルは、一体になって土俵に上げていかないと無理だと思います。新しい施設ができて、既存の施設の活用について疑問が残ります。 ○交流施設がどういうものなのか、どういうニーズのもとに盛り込むのかよくわかりません。図書館と公民館を一緒にするなら、町中の施設と重なると思います。新しい施設の機能や役割についても、どのような場所なのかが見えません。
市 長	○どういう施設なのかというと、図書館機能と公民館機能、交流施設の3つが合わさった複合的なものです。図書館はニーズを深掘りする必要があります。公民館は自主活動のニーズを大切に、交流施設は子育て世代が図書館や屋内外スペースで交流できる場を整備する考えです。 ○中心市街地以外に施設ができる場合も、中央公民館としての機能を

	残しニーズを反映できるようにしたいと考えています。
参加者	○中条地区の町中にも公民館施設や図書館施設などの機能の施設を、既存のものもどう活用するかを含めて検討しつつ、さらに別の場所に生涯学習施設を整備するという二本立ての考えでよろしいでしょうか。
市 長	○まだ嘉平山や中心市街地以外に生涯学習施設を造ることは決まっています。もし中心市街地以外にできる場合は、中央公民館や図書館の機能を維持し存続させることが皆さんのニーズに合致すると考えています。ただし、中心市街地に造ることが現実的かつ物理的に可能であれば、中央公民館や図書館は廃止されても、特別に残してほしいとはならないでしょう。そのような方向で進められると考えています。
参加者	○説明会などの参加者は高齢者が多く、若い世代や子育て世代がほとんど来ていません。統合中学校の話は、今生まれたばかりか2～3歳くらいの子どもの持つ世代に関係しますが、そうした世代が無関心なのか、市の説明に賛成なのかは不明です。しかし、この世代も10年後20年後には親の介護や自身の高齢化に直面することを考えると、無関心では済まされません。参加者の意見だけでなく、見えない声も含め、いかに多様な世代の声を吸い上げるかを考えてほしいと思います。
市長	○せっかく造る施設ですので、多くの方に納得とご理解、喜んでいただけるような施設整備に努めなければならないと考えています。
参加者	○最終的に生涯学習センターをどこに建てるかは、どのように決めることになるのでしょうか。最終的な決着の方法を知りたいです。
市長	○嘉平山に固執しているわけではありません。各候補地を並列に示し、広くご意見をいただき、専門家や市民で構成される審議会の答申を最大限尊重して決めていく方針です。他の場所が望ましい場合も同様に尊重し、実現の可能性を大切に進めます。

3-2 質疑 （第2部）

参加者	○まず、公民館と図書館の問題があることは理解していますが、建設費が非常に大きいのではないかと心配であり、またそこまでの施設が本当に必要か疑問です。町の中心部だけでなく胎内市全体が平等に利用できることが大事であり、既存施設の活用の方が有効ではないかと思います。
市 長	○まずコストについては資材高・物価高の中で金額が膨らんでいます。できるだけ縮減を図る必要があります。洋上風力発電による固定資産税収入も裏付けとして考えています。ご指摘のとおりニーズの有

	無も大切ですが、以前から公民館や図書館、子育て世代も利用できるように施設整備の要望が強くありました。胎内市全体の利用を意識し、中心部に整備する場合も乙・築地・黒川などと同様に地域の図書館や公民館は残すべきと考えています。財政的な裏付けを考え、ニーズが偏らないよう、多くの市民に喜んでもらえる施設を目指していきたいと思っています。
参加者	○この資料の 6 ページの「基本計画」にある①②③の内容について、言葉が漠然としていますので、どの程度のことを考えているのか具体的に説明してほしい。 ○中条高校について、生徒数も 150 人足らずと非常に少なく、このまま存続できるのか不安があり、敷地や施設をそのままにしておくのはもったいないと思います。将来的に統合する中学校を中条高校の場所で活用できないかと考えています。
市 長	○建設候補地の条件については延べ床面積を最大 4000 m² と想定し、図書館・公民館・交流施設を合わせて整備する計画です。駐車場や散策スペース、子育て世代が安心して利用できる場があれば望ましいと考えています。 ○中条高校については、生徒数は減少していますが、地域に残ることで郷土への思いが育まれるということもあり、今学んでいる生徒やこれから入学する生徒の存在を大切にすべきです。県教育委員会も廃止の方向を示しているわけではなく、市が介入できるものではありません。さらに「地域みらい留学」により首都圏などからの受け入れも進めており、現時点で統合中学校としての活用を考えるべき状況ではないと認識しています。
参加者	○中条高校も含めて既存施設の利用を考えるべきだと思います。小中学校の再編を急ぎ、その上で中条高校の問題も検討する必要があります。今後多くの文教施設が空き家になることは明らかであり、その活用も視野に入れるべきだと感じています。
市 長	○無駄のないように、新しい施設を造るだけでなく、今ある施設の利用促進も十分考慮していくべきだと思います。 ○生涯学習施設の前に小中学校の再編も考慮すべきであり、その点も傾聴すべきだと思います。将来の推計では、中学校は 10 年後に小規模校で 1 クラス 10 人を割り込む見通しであり、それを再編のターゲット時期と考えています。 ○中学校と小学校では趣が異なり、中学校は教科担任制や行事、社会性育成のため一定の人数が必要であり、その違いを見定めながら進めるべきだと思います。
参加者	○来場者や説明会に来ている方々の関心は、ほぼ嘉平山に施設を造る

	ことに集中しており、それ以外のことはほとんど問題視されていないと思います。なぜ嘉平山が最重要候補でなければならないのかという理由です。 ○コンセプト実現のための建設候補地の比較資料も見ましたが、嘉平山に造るのが一番よいという印象を与える資料になっており、他の候補地には不利な印象が付いていて、報告としてはやや偏ったものに思えます。資料が偏った印象を与えやすい点についてももう少し説明してほしいと思います。
市 長	○嘉平山にこだわる理由もごり押しする意図も全くございません。逆に中心市街地に広々とした適切な場所があれば、それが最も望ましいと思っています。しかし現実には、用地取得が不要で十分な広さを確保できる場所はなかなか見つかりません。中学校4校の統合を考えると、面積的に広さが必要で、スクールバスや駐車スペースも確保する必要があるため、嘉平山以外で生涯学習施設をすべて両立させるのは物理的には難しいと思います。中央公民館的な施設であれば、複数階にすれば敷地内でゆとりを持たせることは可能ですが、交流施設や広い駐車場も含めると難しいというのが現実です。また、誰もが歩いて行ける施設は理想ですが、物理的には成り立たず、多くの人は歩いて通うことはできません。そのため、最大公約数的にどの場所が適しているかを選ぶことが現実的な解決方法です。 ○今後も、より良い候補地や利用ニーズを満たす場所があれば、きちんとお聞きし、望ましい施設設置に至る道筋を整えていきたいと考えています。
参加者	○施設を造る際に、車椅子の方や高齢者の方が利用しやすい駐車場にしてほしいです。新しい施設では、入口付近に屋根を設け、乗り降りの際に雨に濡れないような配慮をしていただけると助かります。小さなお子様やベビーカーの方も利用するため、様々な交通手段で来館する方に対応できるよう検討していただきたいです。
市 長	○とても大切なご要望として承ります。駐車場に限らず、スロープやトイレなど、施設全体が誰でも利用しやすいよう配慮することは非常に重要です。足の不自由な方や高齢の方が車や公共的なアクセスも併せて考えていくなども想定し、新設施設だけでなく既存施設の改良も含めて考慮してまいります。
参加者	○生涯学習施設は市の社会教育の取り組みとして、長期的な視点で非常に重要だと考えています。有識者を迎えた審議会の立ち上げについても、こうした対応はもっと早く行うべきだったのではないかと受け止めています。

	○人口減少の見通しや既存施設の扱い、見直しや集約も避けて通れません。具体的な意見や要望は改めて整理し提出したいと考えています。
市 長	○審議会の設置は多様な意見が出ている中で、より深く検討するために設置することは前向きな対応であり、前向きに進めるものと考えています。 ○人口減少や施設活用は先を見通すのが難しく、地域の暮らしを守りながら議論を重ね、最適な配置を検討してまいります。洋上風力や教育機関などによる地域の活力も踏まえ、現実を見据えつつ理想を持って持続可能なまちづくりを進めてまいります。
参加者	○先ほどの質問の関係ですが、中学校統合の際には高校の敷地や設備を活用することも検討してはどうか、中高一貫のような形も含めて併用を考えたらいいのではないのでしょうか。
市 長	○高校は県の所管であり、中学校は市の所管であるため、中高一貫のような形を進めるにはハードルが高いかもしれません。県教育委員会と情報共有する機会があれば、議論の俎上に載せていただきたいと思います。
参加者	○胎内市は、過去に黒川の観光事業や中条町時代の財政難を経て合併した経緯があります。同じ失敗を繰り返さないよう、財源は洋上風力のように不確定なものに頼らず、確実に確保していただきたいと思います。 ○将来負担となる施設整備とならないよう、市としてしっかり考えてもらいたいと思います。
市 長	○財政面については、洋上風力だけに頼る考えではなく、もし現実とならなければ方向転換も視野に入れる必要があると考えています。総合的に要素を見極めながら進めていきます。